ファースト・ジオロジーのすすめ―深田地質研究所における地質学普及の試み―

Recommendation of the First Geology -Dissemination of earth science of Fukada Geological Institute-

藤田 勝代 [1]; 川村 喜一郎 [2]
Masayo Fujita[1]; Kiichiro Kawamura[2]

[1] （財）深田地質研究所; [2] 深田研
[1] Fukada Geological Institute; [2] FGI

1．ファースト・ジオロジーとは

自分の身の回りにいる人を思い浮かべたとき，すべての人が地質学に興味をもっているとは限らない。むしろ岩石や化石のことを気にしながら日常を送っている人のほうがよっぽど少ないのではないだろうか。そのような今まで無関心であった「地質学」の分野に触れるきっかけとなるもの，あるいは，私たちの日常から地質学の要素を導き出して，地質学への興味関心を持ってもらうきっかけとなるもの，それが「ファースト・ジオロジー」である。遊園地地質学，ゴルフ地質学，観光地質学，庭園地質学などアイディアはつきない。身近な関心事との接点を上手く見つけ融合させることで，地質学はぐっと身近なものになる。「ファースト・ジオロジー」は単なるきっかけにすぎないかもしれないが，地質学がより奥深く楽しいものであることが多くの人に伝えられるのならば，こんなにすばらしいことはない。地質学への誘い（いざない），地質学入門「ファースト・ジオロジー」とはどのようなものなのか，私たちの取組みの一端を紹介する。

2．作って楽しむアンモナイトアクセサリー

深田地質研究所では毎年 10 月に所内の一般公開を行ってきている。参加者は主に近隣住民の方で，年齢層は幼稚園児からご年配の方までさまざまである。その中でなるべく多くの人に地質学に興味関心を持ってもらうイベントにしようと，ファースト・ジオロジーのあり方に工夫を凝らしてきた。７年前から実践しているのが「作って楽しむアンモナイトアクセサリー」（藤田・川村,2007）である。アンモナイト化石の型どりを，石膏ではなく，プラスチック樹脂で行う。取り出した化石のレプリカにビーズやシールを多用して装飾し，ネックレスやストラップ，マグネットに仕上げ，身近に置いてもらえるよう改良してきた。これまでの石膏では，乾くのに時間がかかることや，見た目が白一色で，手触りがざらざらしていて，どうしても，園児やそのお母さん方には興味を持ってもらいにくかった。しかし，雌型に「おゆまる（ヒノデワシ社製）」，レプリカ本体に多彩な「自由樹脂（ダイセルファインケム社製）」を使い，アンモナイトアクセサリーとして始めてからは，関心の度合いが格段に変わり，ファースト・ジオロジーとして，化石＝楽しい＝地質学，という私たちの思いを伝えられていると感じている。昨年は日本科学未来館，青少年のための科学の祭典（広島大会）でも実施され好評を博した。作り方は深田地質研究所のホームページ内からダウンロード可能である（URL:http://www.fgi.or.jp/FGIhomepage/Our_study）。

3．大名庭園の庭石の活用

桜の季節には花見，秋には紅葉狩り。季節ごとの行楽や日常の散歩道として利用される大名庭園には多くの銘石が鎮座している。しかしながら，普段は風景の中に溶け込んでいるせいか，銘石そのものに関する詳しい情報を目にする機会はほとんどない。そこで，これまであまり論じられてこなかった大名庭園の石についてファースト・ジオロジーとして地質学的視点に立った解説を試みた（川村・佐藤,2008）。六義園（東京都文京区）にはさまざまな庭石が置かれており，文学的な意味や，石の配置場所にも意味がある銘石がある。六義園の庭石を通して，地質学への関心が少しでも高まるよう，六義園を発信地とする「地質学」と「文学」の融合についての考察を紹介した。

また川村（2008）では清澄庭園（東京都江東区）にも着目している。清澄庭園は明治時代に岩崎彌太郎所有のころ，全国各地から名石を取り寄せており，庭園には全国各地の名石が５５個もある。また，産地と石の種類が書かれた立札を読むと，石のいわれが簡単にわかるようになっている。庭園を一周するころには，北は泥岩の仙台石，南は変成岩の伊予青石までを観察することができる。サービスセンターで配布している清澄庭園の銘石一覧表にも，石の産地，由来，庭石としての程度，岩石の種類が書かれており，庭石を詳しく観察できるようになっている。

このような大名庭園は，歴史や文学と融合した「石の博物館」であり，ファースト・ジオロジーとして最適であると考える。私たちの手の届くところにある地質学入口の材料として，大名庭園の庭石に一目置いてみてはどうか。

引用文献

1) 藤田勝代・川村喜一郎（2007）作って楽しむアンモナイトアクセサリー-(財) 深田地質研究所一般公開で実施されてきた化石の型取りを通してする地学教育の普及-. 深田地質研究所年報. 8, 81-88.

2) 川村喜一郎・佐藤　正（2008）ファースト・ジオロジー：六義園の庭石に見る地質学への誘（いざな）い. 深田地質研究所年報,9,1-9.

3) 川村喜一郎（2008）もう一つの東京の石の博物館 -清澄庭園と六義園に見られる庭石から地球科学を考える-. 地質学会ニュース. 5 月号, TOPIC, 11.